

氏名	北島義典	部署	健康開発学科健康行動	職名	准教授
研究分野	運動疫学 体力科学 公衆衛生学				
学位	体育学修士				
学歴	1987年中京大学体育学部体育学科、1991年中京大学大学院体育学研究科修士課程、1993年中京大学大学院体育学研究科博士課程				
経歴	1994年6月(公財)明治安田厚生事業団 体力医学研究所 研究員 常勤、2005年4月同 副主任研究員 常勤、2011年4月同新宿健診センター学術室 室長(兼務)、2012年4月埼玉県立大学 保健医療福祉学部 健康開発学科 准教授、2012年10月同大学院 博士課程前期 健康福祉学研究科(兼務)、2015年4月同大学院 博士課程後期(兼務)				
所属学会(役職)	日本体力医学会(評議員)、日本運動疫学会(理事)、日本健康教育学会(理事)、日本公衆衛生学会、American College of Sports and Medicine(アメリカスポーツ医学会)、日本体育学会、日本運動生理学会、日本疫学会、日本栄養改善学会、日本民族衛生学会、日本ストレス学会、日本学校保健学会				

【2015年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1					
2					
3					
(2) 論文					
1	身体活動に着目した睡眠保健活動.	単著	睡眠医療. 9, 375-381. ISBN978-4-89801-533-9 C3047	北島義典	2015. 9
2	Improvement in arteriosclerosis parameters and lower limb muscle strength in middle aged and elderly people attending diabetes prevention program.	共著	Int J Anal Bio-Sci (2015); 3(3): 41-46.	Tajima A, Kitabatake Y, Yasojima T, and Kayaba K.	2015. 9.
3	介入研究によるエビデンスの「つくる・伝える・使う」の促進に向けた基盤整備への呼びかけ 日本運動疫学会プロジェクト研究	共著	運動疫学研究. 17(2), 113-117	中田 由夫, 笹井 浩行, 北島 義典, 種田 行男	2015.9
(3) 学会発表					
1	The Relationship Between Exercise Habits and Depression in Community-dwelling People.	共著	America College of Sports Medicine 62th Annual Meeting. USA	○Kitabatake Y, Wakabayashi C, Nobuhara H, Sakai H.	2015. 5.
2	団地における住民主体の健康なまちづくり 進め方と評価	共著	第23回日本健康教育学会. 群馬	○北島義典, 延原弘章, 三浦宜彦.	2015. 6.
3	身体活動の増加が主観的睡眠に及ぼす影響	共著	第70回日本体力医学会. 和歌山.	○北島義典, 奥田隼平.	2015. 9.
4	前期高齢者の自転車利用と人口統計学的要因等の関連	共著	第71回日本体力医学会. 和歌山.	○天笠 志保, 福島 教照, 大谷 由美子, 菊池 宏幸, 高宮 朋子, 小田切 優子, 北島 義典, 岡 浩一郎, 井上 茂	2015. 9.
5	膝痛改善プログラムによる地域高齢者の膝痛及び抑うつ改善効果	共著	第72回日本体力医学会. 和歌山.	○佐藤 慎一郎, 高橋 将記, 武田 典子, 北島 義典, 天野 奥津江, 荒尾 孝	2015. 9
6	東京オリンピック・パラリンピック・レガシーと身体活動・運動・スポーツの推進 学術はどう貢献できるか 介入研究によるエビデンスの「つくる・伝える・使う」の促進に向けた基盤整備 日本運動疫学会プロジェクト研究の計画	共著	第18回日本運動疫学会. 愛知.	○中田 由夫, 笹井 浩行, 北島 義典, 種田 行男	2015. 9.
7	運動疫学セミナーの評価に関する調査研究 日本運動疫学会プロジェクト研究の計画	共著	第18回日本運動疫学会. 愛知.	○中田 由夫, 笹井 浩行, 北島 義典, 種田 行男	2015. 9.

8	女性の健康関連ライフスタイル10年間の 変化 黒石市、中野市、豊見城市の地域 比較	共著	第74回日本公衆衛生学 会(長崎)	○若林 チヒロ, 本間 三恵子, 伊藤 奏, 加藤 朋子, 北島 義典, 野口 有紀, 内山 真理, 新村 洋未, 山口 乃生子, 延原 弘章, 久保田 富夫, 柳川 洋	2015. 10.
9	女性の日常的症状の経験とネットによる 健康情報希求行動との関連 本邦3地域 調査から	共著	第74回日本公衆衛生学 会(長崎)	○本間 三恵子, 若林 チヒロ, 延原 弘章, 北 島 義典, 内山 真理, 加藤 朋子, 新村 洋 未, 山口 乃生子, 伊 藤 奏, 野口 有紀, 柳 川 洋	2015. 10.
10	主観的階層帰属意識と歯科保健行動との 関連	共著	第74回日本公衆衛生学 会(長崎)	○伊藤 奏, 若林 チヒ ロ, 野口 有紀, 内山 真理, 加藤 朋子, 北 島 義典, 新村 洋未, 延原 弘章, 本間 三 恵子, 山口 乃生子, 柳川 洋	2015. 10.
11	うつ傾向とライフスタイルの関連 青森県 黒石市、長野県中野市、沖縄県豊見城市 の比較	共著	第75回日本公衆衛生学 会(長崎)	○加藤 朋子, 若林 チ ヒロ, 新村 洋未, 久保 田 富夫, 延原 弘章, 北島 義典, 内山 真 理, 山口 乃生子, 本 間 三恵子, 伊藤 奏	2015. 10.

(4) その他

1	査読 Journal of Occupational Health(英 文誌)		日本産業衛生学会		2015
2	査読 体力科学		日本体力医学会		2016
3	査読 体力科学		日本体力医学会		2016
4	査読 Journal of Occupational Health(英 文誌)		日本産業衛生学会		2016
5	日本運動疫学会 運動疫学セミナー		日本運動疫学会	委員長 兼 講師	2015.8.
6	日本疫学会 サマーセミナー		日本疫学会	運営委員	2015.8.

2. 競争的資金等の研究

	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省基盤研究B	地域高齢者を対象とした生活拠点型介護予防 システムの開発、荒尾孝・研究分担者	平成27年度－29年 度
2	厚生労働科学研究費補助金	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合 研究事業 健康日本21(第2次)に即した睡眠 指針への改訂に資するための疫学研究、兼板 佳孝・研究分担者	平成25年度－27年 度
3	文部科学省 基盤研究C	公的団地居住高齢者 複合介入プログラム、三 浦宜彦、研究分担者	平成26年度－28年 度
4	埼玉県立大学	武里団地における住民主体の健康なまちづく り―若者と築く「健康長寿武里モデル」(武プロ)―、北島義典・研究代表者	平成27年度
5	埼玉県立大学	国際ライフスタイル研究、坂井博通・共同研究 者	平成27年度

3. 教育業績

	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
(1) 講義			
1	健康科学 I	2015.10 -2016.3	健康科学や健康文化論を学ぶ際に必要な、基本的な知識の習得を 目的とする。
2	大学院後期課程 健康長寿演習	2015.4-2015.9	疫学的な立場から、疾病に関する危険因子の解明に関わる論文や 予防プログラムの開発・評価についての論文を批判的に読み、長寿 社会における健康に資する研究の立案を行える能力の獲得を目指 す。
3	大学院後期課程 健康長寿論	2015.4-2015.9	健康長寿の実現に向けて、疾患の危険因子の探索方法や予防プロ グラムの開発・評価方法について解説し、主として疫学的な観点か ら、長寿社会における健康に資する研究の立案を行える能力の獲得 を目指す。

4	大学院後期課程 加齢神経運動機能論	2015.10 -2016.3	多領域の新たな知見と研究手法で学び、神経運動機能の低下を評価して解析するために必要な神経科学、運動科学的研究法を学ぶ。また、機能低下や障害構造の解析によって得られる結果の解釈、神経・運動機能向上を目的とした介入法への応用、介入の制限や限界についても学ぶ。	
(2) 演習				
1	健康行動科学演習	2015.4-2015.9	人間の行動を総合的にとらえ、科学的手法によって観察・記録・分析し、行動を規定する種々の要因を理解し、健康教育への適用を探る。	
2				
3				
(3) 実習				
1	健康行動科学臨地実習	2015.10 -2016.3	各種健康増進施設や学校あるいは職場における健康増進プログラムや健康教育プログラムの立案・実施・評価の活動を実践する。	
2	健康生活測定	2015.10 -2016.3	身体が発する情報を測定し、その影響因子について考える。また、身近な道具や日常的な動作の原理を理解する。それらをもとに、身体の動かし方や生活の仕方が健康におよぼす影響について学ぶ。	
3	IPW実習	2015.8-2015.10	本学で学んできたヒューマンケア視点・姿勢に基づき、チームメンバーの専門性と多様性の相互理解を通して、専門的な知識や技術を活用し、リフレクションを行い、チーム形成と協働の実践の方法を身につける。	
(4) 論文指導				
1	課題別演習 I・II	2015.4-2016.3	2年次までの健康行動科学専攻における必修専門科目、ならびに他の領域・分野で学んだ学修をもとに、学生自ら課題を設定し、その課題に近い分野を専門とする健康行動科学専攻の所属教員を選び、その指導教員のもとでゼミナール(ゼミ)方式の授業から課題の探究を図る(学部生5名)。	
2	卒業研究	2015.4-2016.3	研究計画を立案し、それに沿って資料・データを収集後、整理をして、論議の進め方を修得する(学部生5名)	
3	大学院博士前期課程 論文副指導	2015.4-2016.3	学会でのディスカッションを通じて得られた新し知識や方法を用いて論文指導を実施し、質の高いエビデンスを構築することを目的とする。	
(5) その他				
1	保健医療福祉と経済	2015.10 -2016.3	科目担当	
2	身体運動科学(非常勤講師)	2015.4-2016.3	身体運動の実践を通じて、身体を動かすことの身体的、精神的、および社会的生活機能への有効性を学ぶ。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会等の講師				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	健康運動指導養成講習会	公財)健康づくり事業財団	体力測定と評価 介護予防に関連する体力測定とその評価	2015. 6. 3, 2015. 11. 18
2	警察庁警察大学校「健康管理実務」専科講義	警察庁給与厚生課	運動における生活習慣病対策(講義・実技)	2015.9.2
3	富山県特定保健指導研修会	富山県保険者協議会	身体活動・運動に関する保健指導	2015.9.10
4	ISG国府台 創立10周年記念事業 健康パワーアップ講座	総合型地域スポーツクラブ市川スポーツガーデン 国府台	健康情報に惑わされない！一疑い方・信じ方を学ぶー	2015.9.11
5	まちだ市民大学 「こころ」と「からだ」の健康学	町田市教育委員会	+10(プラステン)から始めよう！～日常生活に運動を～	2015.11.11
6	杉戸町講演会(大学を通じての依頼)	埼玉県杉戸町	運動とこころの健康	2016, 2, 5
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称		任期
1	日本運動疫学会	理事 兼 運動疫学セミナー委員長		平成22年4月～
2	日本健康教育学会	評議員 兼 総務担当		平成23年4月～
3	日本体力医学会	評議員		平成23年9月～
4	町田市教育委員会	まちだ市民大学HATSプログラム委員		平成22年10～
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
5. 学内運営(委員会委員)				

1	教務運営部会		
2	大学院FD部会		
3	オープンキャンパスでの専攻説明		
4	平成27年度大学向上特命プロジェクト広報プロジェクトからの原稿依頼(県大トピック平成28年2月17日発行)		
5	3年生の学年担任		
6	サークル活動の部長 D's Bar (ダンスサークル)		
7	サークル活動の部長 ベンゼン(映画鑑賞・麻雀)		
8	香港理工大学・チューリッヒ大学 SPU短期留学プログラム2015		
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
	該当なし		